

第二十七回企業活性化研究分科会・議事録

<第二十七回 2010年1月23日(土) 時間:13:30~17:30 於:専修大学(神田校舎)>

1. 参加者:山本、井端、星野、木村、大柳、古山、魚谷、渡邊、横山、依田、高市、菅原、宮川、齋藤、酒井、杉本

2. テーマ:企業活性化に関する研究

3. 発表内容

テーマ①:『“Turnaround Strategies” by Charles W. Hofer』についての英訳および検討

・報告者:山本洋信

ターンアラウンド戦略について英文を読み、翻訳の検討および議論を行った。

テーマ②:『粉飾企業の分析』

・報告者:渡邊繁生(株式会社プロネクサス)

・配布資料:8枚

・報告内容の要旨

本報告は、平成17年10月28日に名古屋地裁に民事再生法手続開始の申請を行ったサンビシ株式会社について、同社の粉飾・破綻の経緯について検証したものである。本報告は粉飾がすでに発覚している会社を対象としているため、同社による粉飾を会計データを用いた分析から発見することを目的としている。本報告では、売上高等の推移や現金及び預金の推移または売上債権など各資産の回転期間の推移から分析を行っている。

分析に関してはまず、売上高等の推移から有利子負債の増加に着目している。この有利子負債の増加による総資産の増加について、同社には多額の不良資産がたまっていることを指摘している。このような不良資産の増加をより詳細に分析するために、現金及び預金や売上債権をはじめとする各資産項目の回転期間の推移を分析している。同社と同業他社の回転期間を比較することにより、同社の回転期間が他社と比べて、非常に長いことを指摘している。

以上のような分析から、同社は兄弟会社であるサンビシ商事株式会社を利用したデリバティブ取引を連結対象から外し、同社の財務諸表を実態よりも良く見せ、実力以上の資金を調達していた「連結外しの粉飾」の事例と考察している。

(文責:齋藤幸雄)